

のりみが行く!!

下水汚泥焼却灰の南本牧廃棄物 最終処分場への埋立て開始について



下水汚泥焼却灰の試験埋立て実施状況のとおり、安全を確認できましたので、予定どおり、平成26年4月以降の焼却灰を対象に、本格的な埋立てに移行します。

本格的な埋立ての方法は、試験埋立てと同様とし、開始時期は平成27年7月（予定）で、1日当たりの運搬数量を10～20台程度（下水汚泥焼却灰で約15～30トン/日）とします。

なお、引き続き、混合灰の放射性物質濃度、処分場敷地境界の空間線量、排水処理施設の流入水等の放射性物質濃度を定期的に測定し公表します。下水汚泥焼却灰の資源化利用についても引き続き促進します。

（下水汚泥焼却灰試験埋立て実施状況）

- （1）実施期間：平成27年2月5日～3月13日
- （2）約84トン（加湿状態の重量）の試験埋立てを行いました（延べ61台－1日当たり約2台）。
- （3）混合灰は、放射性物質濃度100ベクレル未満としました。
- （4）周囲に飛散しないよう、南本牧廃棄物最終処分場への搬入にあたり十分加湿状態にし、蓋つき産業廃棄物車で運搬するとともに、処分場内においても散水、覆土等を実施しました。
- （5）処分場の敷地境界の空間線量は、試験埋立て前と埋立て後で変わらず、市内の一般的な値と同等でした。
- （6）排水処理施設の流入水等の放射性物質濃度は不検出で変化はありませんでした。

【下水汚泥焼却灰の埋立量、混合灰の放射性物質濃度の状況】

	2月				3月		合計
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	
下水汚泥焼却灰の埋立量 [t]	15.2	11.5	14.3	14.3	14.3	14.8	84.4
混合灰の放射性物質濃度 [Bq / kg]	55.4 (2/6)	58.1 (2/13)	61.1 (2/20)	41.2 (2/27)	37.0 (3/6)	34.1 (3/12)	—

【モニタリングの状況】

		試験埋立て開始前	試験埋立て開始後	
空間線量 [μ Sv/h]	敷地境界 (東西南北の4か所)	0.04～0.06 (1/8)	0.04～0.06 (2/12)	0.04～0.05 (3/17)
放射性物質濃度 [Bq/kg]	流入水（3回/週）	不検出	不検出	
	放流水（1回/週）	不検出	不検出	
	排水汚泥（1回/月）	不検出	不検出	
	周辺海水（1回/月）	不検出	不検出	



金沢区下水処理場



南本牧廃棄埋立場



金沢区内にある南部汚泥資源化センターは、焼却灰の保管を開始してから約4年が経過し、施設内の保管スペースが満杯となり、昨年の3月以降、内道路や駐車場も保管場所として利用し始めました。平成26年7月からは、放射性物質濃度が十分低下したことから、一部の焼却灰で建設資材化が開始されましたが、保管スペースが無い状況は変わりなく、下水処理への影響など大変心配していました。昨年の12月、ごみ焼却灰と混合させて1キログラム当たり100ベクレル未満にすること、試験埋立てを行い安全確認することなどで、市民・関係者の一定の理解を得られたことから、南本牧廃棄物最終処分場の陸地化部分に埋立てを行うことになり、私も2月23日に、試験埋立ての状況について、南本牧廃棄物最終処分場に行き、最終処分場の陸地化したところで大きな機械で穴を掘り、焼却灰の埋立てを行っている現場を自分の目で確認してまいりました。「ごみ焼却灰」と「下水汚泥焼却灰」を混合した「混合焼却灰」を埋め立てていましたが、この混合焼却灰は、十分「水」で湿らせているため、産業廃棄物運搬車からの積み降ろしや埋立て時も、周辺への飛散はありませんでした。また、一つの穴の埋立て終了時には、その都度、砂利等で埋立て物を覆土するなど確実に行われており、私は十分安全と感じました。放射能は目に見えないものなので、市民・関係者の皆様もご心配だと思います。この4月に二期目を再選させて頂きましたので、今後も海を選挙区に持つ議員として動向を監視してまいります。